

## 2023年10月、5階南病棟 再開しました！

2020年「コロナ禍」、当院も最前線で奮戦していました。しかし未知のウイルスへの不安や困惑は大きく、当院ではコロナ陽性者が発生した病棟での職員の出勤停止やゾーニング対応に追われる中、職員確保のため他病棟から病棟看護師が応援対応するなど最善を尽くしながら病棟の閉鎖と再開を繰り返してきましたが、2022年9月、5階南病棟閉鎖という苦渋の決断をせざるを得ないこととなりました。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に引き下げられ、様々な制限が緩和されてきました。当院でも長きにわたり面会制限をしていましたが、完全再開とまではいきませんが、ようやく制限緩和することができました。また、院内全体で「病棟稼働キャンペーン」に取り組み、目標であった10月1日からの5階南病棟の再稼働を実現することができました。



副院長 兼 消化器内科主任診療部長・5南病棟責任医師  
市川 辰樹



現在の5階南病棟は、呼吸器内科、臨床腫瘍科、消化器内科の症例を中心とした病棟です。コロナ禍以前は、5階南病棟といえば、心臓血管疾患を中心とした病棟でした。特にCCUも同じフロアにあり、まさに長崎の心臓疾患治療の最前線であった病棟でした。長崎市立市民病院時代から、心疾患は当院の看板部門であり、名前が変わった後も同様でした。そのような病棟がコロナ対応のため閉鎖され現在に至っていたかと思うと、おそろべしコロナ、とんでもない時代だったと思わざるをえません。ポンペ先生が長崎にいたころ、コロナならぬコレラが長崎で流行し、ポンペ先生たちが大奮戦したことも今回のコロナ禍は重なります。

職員数もまだ十分ではない状態ではありますが、少しずつコロナ禍以前の状態に近づけていくことが、当院のコロナからの復活につながっていくと思います。

急な変化は負の遺産を遺すことをコロナ禍で学んだわけですので、ここはゆっくりと、しかし少し急いで、確実に進んでいきたいと思っています。